

越谷市初の自立援助ホーム

家庭で安心して生活することができない子どもたちを社会的に支援しようと、越谷市のNPO法人「越谷らるる」(増田良枝理事長)は、市内初の自立援助ホームを開設することになった。同市千間台西の住宅を改築して来年3月1日にオープンさせる。義務教育を終えた20歳未満の子どもを対象に共同生活し、生活や就業の支援を行うもの。対象は、家庭の貧困、保護者の精神的な不安定、虐待などの事情で、保護者による養育が困難な子どもたち。児童養護施設などで育ち、退所した後、家庭に戻らない子どもも利用する。

越谷らるるは「これまで「フリースクールりんごの木」を運営してきたおり、増田理事長は「中学卒業後、教育、福祉、医療の狭間で苦しみ、援助の手が差し伸べられないのを待つ、どこにも居場所のない子どもがいる」と、その生活全般にわたる支援の必要性を感じている」と話す。

寄付に協力を

「自立援助ホーム」は、児童養護施設などの社会的養護の下で過ごし、きた若者を主な対象として、義務教育終了から就労して社会に出て行くまでを支援する児童福祉法のグループホーム。そのため、20歳を過ぎると公的な支援を得られなくなるという限界がある。

越谷らるるは、これまで不登校の子どもたちの「居場所がほしい」という声に応じて、21年前に「フリースクールりんご



開設に向けて話し合う準備委員たち(「りんごの木」で)

就活など支援、3月開設

「の木」を設立し現在まで運営してきた。これまでの経験から、子どもの不登校や引きこもり状態が問題なのではなく、学校

には様々な家庭の事情があり、社会的な支援が必要なものもあることを実感した。フリースクールの実践経験をベースとして、生

とも話し合いを重ね、来年度からの開設へゴーサインが出た。預かる子どもの定員は6人だ。ホームはらるるの理事が所有する木造2階建て

来年2月までに500万円を目標に寄付も集めている。「ふとんなどの寝具や食器、エアコンなど当初必要なものも多く、多くの人の協力を得たい」と増田理事長は資金援助を呼びかけている。

活全般に支援が必要なものも子どもたちに手を差し伸べよう。今回の自立支援ホームの開設を決意し3年前から準備を進めてきた。埼玉県子ども安全課

社会参加を後押し 20歳未満小中以外、定員6人

の住宅をリフォームする。10月中に改築工事に着手。子どもたちの居室6室(各4・5畳)や職員

利用費が必要。朝、昼、夕食が用意される。就職が決まれば、職場へ持っていく弁当も作る。増田理事長は「まず、いろいろな子どもの事情を理解するように努め、安定した生活環境の中で就職などの進路について一緒に考えていきたい」という。中卒者の就職は実際には困難が予想されるため慎重にしたい。

が、増田理事長らは「20歳を超えた若者をどう支援していくのかなどの課題はありますが、自立支援ホームの設立を機に、子どもや若者を支援する体制づくりにさらに力を入れたい」と意欲を見せている。

スタッフは、元児童養護施設職員ら常勤2人と非常勤1人、さらにアルバイト数人である。24時間体制でのホームのため宿直なども必要になる。利用者は月3万円の

りんごの木で実施している「職場体験事業」に協力している事業所や団体とも連携し、職場体験をしたり、作業補助などを体験してもらい、社会参加の糸口を探っていく。

県内には現在、草加市や上尾市など5か所の自立援助ホームがあり、らるるの設立で6か所目になる。運営には困難も予想される

越谷らるるでは、自立援助ホーム設立のための寄付金をはじめ、生活用品などの寄付も受け付けている。
△問い合わせ▽越谷らるる 970・8888